

## 目次

### 【01】事業報告

#### ■ オリオン寮を活用した活動

- ★ 企業採用担当者・新社会人による講演及びキャリアカウンセリングと外国人留学生ジョブマッチングセミナー&就職交流会
- ★ オリオン寮地域交流会
- 第3回 在関西総領事館との国際交流に関する意見交換会
- 国際交流協会ネットワークおおさか連続研修会-災害時の外国人支援を考える-
- 海外留学フォーラム
- 海外移住家族会近畿ブロック会議開催
- 第21回「ワン・ワールド・フェスティバル」開催

### 【02】新人スタッフ紹介

#### ■ はじめまして

### 【03】大阪府外国人情報コーナー

#### ■ 外国人相談事業の拡充

### 【04】OFIX国際交流員レポート

#### ■ フィリピン・パラダイス

【折り込み記事】 おおさかグローバルレターVOL5

### 【01】事業報告

#### ■ オリオン寮を活用した活動

#### ★ 企業採用担当者・新社会人による講演及びキャリアカウンセリングと外国人留学生ジョブマッチングセミナー&就職交流会

11月9日(土)に「企業採用担当者・新社会人による講演及びキャリアカウンセリング」、12月7日(土)に「外国人留学生ジョブマッチングセミナー&就職交流会」を実施しました。講演では、シンコーマシンツール株式会社代表取締役 宅見隆氏による「企業が求める留学生像について」と元留学生の陳錦新氏(松尾産業株式会社勤務)による「就職活動体験談」について話していただきました。講演には9名、キャリアカウンセリングには11名の留学生が参加しました。ジョブマッチングセミナー&就職交流会には10名の留学生が、就職活動のスケジュールや面接時の効果的な対応についてのセミナーを受講した後、4社の企業と交流しました。講演、就職交流会ともに直接企業の採用担当者と交流ができ、留学生にとって有意義な時間となったようです。

#### ★ オリオン寮地域交流会

12月21日(土)に地域交流会を開催しました。この交流会は、オリオン寮生が近隣住民の方々と交流を深めることを目的として毎年春と冬に行われているもので、寮生が楽しみにしている寮内の行事のひとつです。今回の交流会には約60名の参加がありました。トナカイやサンタクロースの帽子を被った大阪府立大学OBのみなさんが、クリスマスソングの演奏をしてくださったほか、東上野芝自治会、健朗会のみなさんによる童謡や書道の指導で楽しい一時を過ごしました。また、北堺警察署から交通指導、防犯指導を受け、日本で生活するうえでの注意点も学んだ交流会となりました。

#### ■ 第3回 在関西総領事館との国際交流に関する意見交換会

大遊協国際交流・援助・研究協会(大遊協国際交流)主催、大阪府国際交流財団(OFIX)共催の在関西総領事館との意見交換会を2月12日(水)に大阪国際交流センターで開催しました。

出席者は大遊協国際交流の奨学生及びそれぞれの母国の総領事館及び主催者である大遊協国際交流及びOFIXの役職員のほか、大阪府の楠本国際交流監をお招きしました。総領事館からは、中華人民共和国、インドネシア共和国、大韓民国、フィリピン共和国、イタリア共和国、ベトナム社会主義共和国の6か国のご列席をいただきました。

奨学生代表として、OFIX外国人サポーターとして国際理解教育で活躍していただいているベトナム人留学生のレーゴック チャン ティンさんと韓国人留学生のシム スヨンさんにそれぞれの活動報告をしていただきました。

各国総領事館からは、「大遊協国際交流のハンドブックに防災情報をもっと盛り込んでほしい。」「奨学生が日本の企業に就職できるようなコミュニケーションなどを充実してはどうか。」という意見等が出されました。

## ■ 国際交流協会ネットワークおおさか連続研修会-災害時の外国人支援を考える-

「国際交流協会ネットワークおおさか」は、府内の国際交流協会が情報交換などを通じて、外国人支援に協力して取組むネットワークで、富田林市、吹田市及び箕面市の国際交流協会が中心となり、大阪国際交流センターや大阪府国際交流財団(OFIX)も参画しています。

具体的には、東日本大震災時に中国語翻訳とともに携わるなどの活動が展開されています。

南海トラフの巨大地震等大阪府域を襲う大きな震災が発生した場合、単独の国際交流協会では対応しきれないことから、府内の国際交流協会が連携して取組むことが必要となります。

そのため、府内の国際交流協会が広域に連携して災害時の外国人支援に取組むモデル事業「国際交流協会ネットワークおおさか連続研修会-災害時の外国人支援を考える-」が実施されました。

演習に向けた事前研修会を3回開催し、8月23日に、やさしい日本語の先駆者の弘前大学の佐藤和之教授、8月30日に、仙台市で避難所運営に携わられた連合町内会の今野均会長、さらには9月20日に、多言語支援センターで外国人支援に取組まれた仙台市国際交流協会の須藤伸子課長補佐を講師にお招きし、実践経験をふまえた体験談などをお聞きました。講義の後、演習運営に向け防災情報をやさしい日本語へ翻訳、避難所に避難した外国人の属性に応じたニーズの検討、膨大な量の防災情報のなかから外国人にとって直ちに必要となる情報の選択などのワークを実施しました。毎回約40名の方が参加されました。

このような事前研修を経て、「避難所体験」と「多言語支援センター設置訓練」を同時に行う演習を北部は11月1日に箕面市国際交流協会にて、南部は同23日にとんだばやし国際交流協会にてスタッフ手作りで実施し、北部・南部とも約80名の方が参加されました。

外国人の避難所体験は体験型の訓練で、地元市の危機管理局や消防当局などの全面的な協力を得て実施され、参加した外国人からは「被災したときに何をすべきかがわかった。」「目で見て体で感じて理解できた。」などの感想をいただきました。

多言語支援センター設置訓練では、事前研修で得たノウハウを活かして避難所巡回や防災情報の貼り出し、さらには仙台国際交流協会やしまね国際センターへの翻訳依頼、防災情報のHPアップなど、事前研修会参加者が自ら考えて動く研修で、多少戸惑いながらも精力的に取り組んでいました。

1月24日の演習報告と振り返りでは、「自治会・社会福祉協議会・WEB放送・行政・国流協会から消防・警察まで幅広い参加が得られて良かった。」

「継続して実施する必要性を認識した。」などの意見が聞かれました。コーディネーターの多文化共生マネージャー全国協議会の時光事務局長からも、「避難所体験は体験型の訓練で分かりやすかった。幅広い分野の方々が一緒に実施されたことが良かった。」多言語支援センター設置訓練では「コミュニケーション不足などで多少の混乱もあったが、最初から完璧を求めず、継続していくことが大切です。」などのアドバイスをいただきました。

ネットワークでは現在報告書を作成中です。資料なども掲載しますので、今後、防災訓練・研修を実施される際にご利用ください。

## ■ 海外留学フォーラム

大阪府国際化戦略実行委員会が実施している「おおさかグローバル塾」の説明会にあわせ、2月11日(祝)にマイドームおおさかにて「海外留学フォーラム-海外留学で得られるものは-」を開催しました。グローバル塾の卒業生や留学経験のある大阪の若者、大阪で学んでいる外国人留学生などを招き、海外留学の体験談を発表していただいた後、海外留学で何が得られるのかについてディスカッションをしました。フォーラムには約50名の参加があり、若者のみならず保護者の方も興味深々と発表者の体験談を聞き、海外留学について積極的な質問を受けました。フォーラムの後のアンケートでは、「実際留学体験した方の話を聞くことができて良かった、留学することの良さがすぐ伝わった。」「何人かの方々の話を聞いたのがとても良かった。両親とも日本生まれ日本育ちで留学に迷っていたが、同様の方の留学の話聞いて、不安がなくなりました。」「留学した時の経験や、ためになったことなどを話していただいて、興味がすごく沸いたし、面白いと感じました。」等の声が寄せられました。

## ■ 海外移住家族会近畿ブロック会議開催

昨年12月9日(月)にマイドームおおさかで海外移住家族会近畿ブロック会議を開催しました。

近畿ブロック会議は現在京都府、兵庫県と大阪府の3つの府県が年1回持ち回りで開催しており、近畿地域の海外移住家族会の事業報告や情報・意見交換の大切な交流の場となっています。海外移住家族会は、近年会員の減少や高齢化に伴い、活動の規模が縮小してきており、かつては全国に存在していた地域ブロックも、現在では「関東・甲信越・静岡ブロック」と「近畿ブロック」の2ブロックのみという状況になっています。今回の近畿ブロック会議は初の試みとして、富山県、石川県そして島根県の海外移住家族会の皆様にもオブザーバーとしてご参加頂き、30名の方が出席されました。

活動報告や活発な意見交換がなされ、今後の海外移住家族会のあり方や活動方針について考えることができた貴重な会議となりました。

## ■ 第21回 ワン・ワールド・フェスティバル開催

感じる・ふれ合う・助け合う、世界につながる国際交流のお祭りであるワン・ワールド・フェスティバルが、2月1日(土)・2日(日)に、大阪国際交流センターで開催され、2日間で延べ17,500人の来場者でにぎわいました。

ボランティア参加者は2日間で延べ199名、活動紹介出展団体数は141団体で、その内訳は、NPO/NGO 115団体、8教育機関、3国際機関、5政府機関、1総領事館、9企業でした。

また、プログラムのみ参加団体数は41団体で、その内訳は、会議室プログラム 10団体、民族舞踊 14団体、その他体験プログラム 17団体でした。

OFIXも実行委員会の広報担当として企画の段階から参画し、エスニックメディアに告知文を掲載するとともに、FMCOCOLOにもご協力を依頼し、告知放送に協力していただきました。

---

## 【02】 新人スタッフ紹介

---

### ■ はじめまして

大阪府外国人情報コーナーの相談員に着任しました、高島 育子 と申します。これまで英語コミュニティ通訳ボランティアとして、OFIXをはじめ様々な機関で活動してまいりました。それ以前は、家族の仕事の関係でアメリカ東部に13年間滞在しておりました。

海外生活では特に子育てや教育・医療関係で困ることが多かったのです。当時はインターネットが現在ほど普及しておらず、情報収集はいつも手探り状態でした。言語や文化の違いから、どう調べればいいのかわからず諦めてしまうこともありました。英語で十分意思疎通できないと邪険に扱われることも経験しました。しかし、海外では受け身ではなく自分から積極的に動き、意思表示しないと情報が得られないことを実感しました。そのような体験をふまえ、

在阪の外国人の方のお役に立ちたいと思っております。通訳ボランティアで学んだことを生かしながら、相談員として適切な情報提供ができるよう努めてまいりたいです。相談内容の分野が多岐にわたりますので、まだまだ勉強中ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

---

## 【03】 大阪府外国人情報コーナー

---

### ■ 外国人相談事業の拡充

大阪府外国人情報コーナーでは、昨年12月から相談員 2名体制にして、さらなる相談業務の充実をめざしています。

- 1) 池田市と共催で1日無料相談会を実施  
市町村との共催事業として、池田市と「外国人のための無料相談会」を2回実施(1月16日と3月9日)。  
3月9日(日)は、池田市立カルチャープラザで開催予定です。  
事前予約不要・無料で、他市町村の外国人の方もご参加いただけます。

詳細は、<http://www.ofix.or.jp/news.html#20131218>

- 2) フィリピン人向けセミナー・相談会への協力  
在住フィリピン人向けセミナー(2月23日)と無料相談会(3月2日)に参加協力。無料相談会は、来訪のみならず電話による相談も受けつけます。

詳細は、<http://www.ofix.or.jp/news.html#20140127>

### 【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間：9時から17時30分(月曜から金曜)

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、  
スペイン語、タイ語、フィリピン語、  
ベトナム語、日本語

---

## 【04】 OFIX国際交流員レポート



【折り込み記事】

☆☆

おおさかグローバルレター VOL. 5

大阪府国際化戦略実行委員会 Tel 06-6948-6781

☆☆

大阪留学プロモーション事業について

大阪府国際化戦略実行委員会では、去年に引き続き、インドネシア・ジャカルタ、ベトナム・ホーチミンの2都市において、大阪留学プロモーション事業「JAPAN OSAKA留学&就職フェア2013」を開催しました。今年は、ブース出展型のフェアイベントに加え、大阪と現地の学校同士の交流や提携を積極的に進めていくことを目的として、フェアと別日程での学校間交流会も開催し、フェア、交流会を通じて多数の参加者、来場者を集めて盛大に実施しました。

【インドネシア】

9月21日にバンドンエキステンジ（学校間交流会）、同22日にフェアイベントを開催しました。

バンドンエキステンジは、バンドン市にあるインドネシア教育大学を会場に、インドネシア側からは127名、大阪側からは52名の教育機関と企業の関係者が集まり、交流を深めました。はじめに行われた「インドネシアからの留学生を増やすために必要なこと」などをテーマとしたシンポジウムでは、大阪で何が学べるのかということにとどまらず、入試制度や学費など留学のハードルになるものについての真剣な議論も交わされ、双方が課題の情報共有を図る貴重な機会となりました。この後、自由交流の時間を設け、今後の提携や学生交流に向けた参加者同士の意見交換が行われましたが、時間が足りないと感じるほど熱心に交流が行われ、今後の連携の可能性に期待を感じることができたものとなりました。

翌日のフェアイベントは、ジャカルタ市中心部に立地する展示施設パラikalティニで開催されました。3,500平方メートルという大きな会場にもかかわらず、オープニングセレモニー時には、すでに来場者で埋め尽くされ、熱気で満ちていました。

セレモニーでは、主催者挨拶に続き、来賓の在インドネシア共和国日本大使館進藤雄介公使、ジャカルタ特別州教育局 アブドル・ハミド事務局長ほか、今回のフェアに協力いただいた関係の皆様からも祝辞をいただきました。

会場内は、教育機関ゾーン、企業ゾーン、大阪の魅力発信ゾーン、メインステージ、

セミナールームを設け、教育機関ゾーンには大阪の大学、専門学校、日本語学校が計26ブース、企業ゾーンには大阪の企業やインドネシア進出日系企業が計20ブース出展しました。日本留学や留学後の日本での就職を真剣に考えている人が熱心に出展者の説明を聞く様子が数多く見られ、インドネシアの日本留学に対する熱意を感じました。

今回のフェアでは、留学生相談コーナーや奨学金相談ブースを設け、現地学生からの

質問に直接応じる仕組みを用意したほか、大阪の魅力発信ゾーンにおいて、大阪への留学方法や、留学してから就職までのプロセスをわかりやすく展示するなど、大阪への留学に関する基礎知識や情報の提供に工夫を凝らし、来場者の参加満足度はかなり高いものとなりました。

また、OFIXの学生交流事業として、インドネシアからの留学生であるデウィ・クスリニさんと、大学でインドネシアについて学ぶ伊藤延繁さんには、バンドンエキステンジでのスピーチとパネルディスカッション、フェアイベントでの

セミナーに出演いただき、直接大阪で学ぶ魅力を語っていただきました。実際の留学体験や大阪での暮らしについての生の声を聞けるということで、セミナーでは立ち見が出るほどの盛況ぶり、終了後も来場者から質問が多く飛び交いました。

フェアイベントの来場者は約4,050名にのぼり、日本語学習者が多く、発展めざましいインドネシアの若者に大阪の魅力を直接伝えることができた有意義なイベントとなりました。

【ベトナム】

11月3日にフェアイベント、同4日に学校間交流会を開催しました。

フェアイベントは、ホーチミン市中心部から車で20分ほどのところにあるフートー体育館で開催しました。体育館という広大な屋内施設内に、ステージを設営するとともに、学校関係18、企業関係24ブースが立ち並びました。また、会場内には、大阪における留学情報や留学相談コーナーを設けた大阪魅力発信ゾーンを設けるとともに、出展者が個別にセミナーを行うことができるセミナールームも用意され、大きなイベントのたたくまじりとなりました。

開会式には来賓のホーチミン市人民委員会のフーア・ゴック・トゥアン副委員長や在ホーチミン日本総領事館の中野江里子領事に祝辞を頂戴し、地元関係機関の協力のもとにこのイベントが実現したことを実感しました。

フェアイベントには午前中からたくさんの地元の学生のみなさんからの来場があり、各ブースでは熱心に留学に関する質問を投げかける姿が見られました。

時間ごとに割り振られたセミナーームにおける出展者セミナーも、各時間、ほぼ満席となる盛況ぶりです。ベトナム人学生の日本熱の高さを感じることができました。その一方で、日本への渡航費や学費、生活費といった留学に関する経済的な条件や実状への問い合わせが多く、こうした情報がまだまだ十分に現地では入手できない状況であることが、プロモーションを進めるうえでの課題として見えたような気がします。

ステージ上では、ソプラノ歌手の飯島香織さんによるベトナム語での歌唱や書家の渡辺裕子さんによる書道パフォーマンスなどの文化イベントでも来場者に楽しんでいただいたほか、企業ブースでもそれぞれ賑わいを見せ、一日を通じて開催されたフェアイベントには、最終的に1,850名の来場者がありました。

翌日は、ホーチミンと大阪の教育機関関係者が参加する学校間交流会を市内中心部のホテルで開催しました。ホーチミン側からは12、大阪側も17の教育機関が参加し、代表スピーチや学校紹介の後、自由交流の時間に移ると、双方の出席者は、名刺交換のあいさつから始まり、具体的にどんな交流や提携ができるのかなど、活発な意見交換が行われました。大阪側の参加者からは、直接、いろいろな学校の関係者と自由に意見交換するという機会はこれまでなかなかなかったことなので、有意義な時間だったといった声が聞こえました。

このベトナムのプロモーションでは、OFIXの学生交流事業として、大阪で学ぶ学生のレ・バ・ルアンさんと山本隆也さんの2名の交流生が、フェアイベントでのパネルディスカッションやセミナー、学校間交流会のプレゼンテーションに出演していただきました。学生の目線で、分かりやすく語っていただき、きっとベトナムからの参加者に大阪留学の魅力が伝わったことと思います。彼らの活躍にも心から感謝します。

以上のように、今年の留学プロモーション事業も無事2か国で実施することができました。2度目の開催ということで去年の経験を活かしたことや、全般的に去年と比べて企画面での構想をしっかりと重ね、時間をかけた準備ができたことにより、概ね順調にイベントを進行することができました。今年も多数の来場者があったことは、両国における日本留学への期待や関心の大きさの現れですので、プロモーション事業を入口として、留学生を受け止めるための環境を整備することの大切さを改めて考えさせられました。1人でも多くの留学生が大阪に来ていただけるよう、実行委員会として今後ともしっかりと留学生をサポートしていく事業を展開していきたいと思ひます。